

令和5年4月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター  
交流企画部会長 柿沼太郎

### 国際島嶼教育研究センター第229回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第229回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

#### 記

日 時：令和5年5月29日（月）16時30分～18時  
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室  
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）  
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室  
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）  
WEB：Zoom  
参加費：無料（通信費は参加者負担）

ザンジバルのダガー産業：内陸国へのタンパク質食料供給としての意義

藤本麻里子（鹿児島大学水産学部）

#### 【要旨】

タンザニアのインド洋島嶼地域ザンジバルでは、カタクチイワシの漁業と煮干しへの加工産業が盛んです。カタクチイワシをはじめ、小魚全般をスワヒリ語でダガー（dagaa）と呼びます。ダガーはタンザニアの国民食ともいえるほど身近で重要なタンパク源です。本発表ではタンザニア各地のダガー加工産業を紹介し、特にザンジバルにおける煮干し加工産業に焦点を当てます。

ザンジバルはタンザニアの首都都市ダルエスサラームからフェリーで1時間半ほどの距離にあります。この離島地域に、内陸のコンゴ民主共和国（以下、D.R. コンゴ）から多くの商人が訪れ、煮干しを大量に買い付けて本国へ送っています。D.R. コンゴでは90年代に勃発した内戦とそれに伴う政情不安で、人々の生活インフラは破壊されました。多くの難民が、熱帯雨林の森で野生動物をタンパク質食料として利用せざるを得ない状況が続きました。野生動物は急減し、近年は人々のタンパク源は獣肉から水産物へシフトしています。

発表者はザンジバルにおけるカタクチイワシ漁、仲買加工産業および、コンゴ人商人と産地仲買人の取引慣行などを調査し、そのフードチェーンを明らかにしてきました。また、D.R. コンゴの都市ルブンバシにおける調査から、ザンジバル産ダガーがD.R. コンゴのみならず周辺国にも流通していることがわかりました。本発表では、ザンジバルのダガー産業を紹介し、内陸国へのタンパク質食料供給という観点からその意義を検討します。

### 【対面式でのご参加（要登録）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて5月25日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：  
お電話番号（必須）：  
ご所属先：  
ご住所：  
メールアドレス：  
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

### 【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて5月25日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：  
メールアドレス（必須）：  
ご所属先：  
ご住所：  
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

---

### 【ご連絡先】

対面式（申込期限：5月25日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：大塚）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：財部）

オンライン（Zoom）（申込期限：5月25日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）